



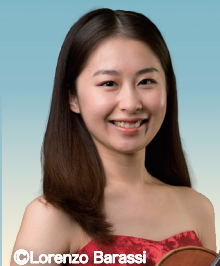
被爆80周年
《Piece of Peace》
～平和のかけら～

被爆80周年

酒井茜 & 広響 室内楽コンサート

～明子さんのピアノとともに～

ピアノ
酒井 茜
Akane Sakai, Piano
©Andrej Grilc



ヴァイオリン
北田千尋
Chihito Kitada, Violin



ヴィオラ
安保恵麻
Ema Ambo, Viola



チェロ
マーティン・スタンツェライト
Martin Stanzeleit, Violoncello



フルート
森川公美
Kumi Morikawa, Flute



クラリネット
高尾哲也
Tetsuya Takao, Clarinet

2025
6.22 SUN 15:00開演
(14:30開場)

JMSアステールプラザ オーケストラ等練習場

Sunday June 22, 2025 Start 15:00 [Open 14:30]
JMS Aster Plaza Orchestra Practice Area

広響平和音楽大使マルタ・アルゲリッチが推薦する
ピアニスト、酒井茜が広島のためにプロデュース。
ショパン、シュベルマン(戦場のピアニスト)、
ヴァインベルク、メシアン、細川俊夫から、
シューマンまで多彩な音楽で
広響メンバーとともに平和への想いを捧げます。

チケット料金 (税込・全席自由) 一般: 2,000円

※6/21 広響特別定期演奏会のチケットをご購入の方は1,000円

チケット発売日 / 2025年4月21日(月)

プレイガイド / 広響webチケット、広響事務局

※やむを得ぬ事情により、出演者・曲目等を変更する場合がございます。

※就学前のお子さまのご入場はご遠慮ください。

※開演時間に遅れた場合、入場に制限がございます。

Program

明子さんのピアノ

ショパン: ノクターン第20番嬰ハ短調(遺作)
Chopin: Nocturne No.20 in C-sharp minor Op.posth.

ウワディスワフ・シュベルマン: マズルカ ヘ短調
Władysław Szpilman: Mazurka in F minor

ロマン・マチエフスキ: マズルカ第9番
Roman Maciejewski: Mazurka No.9 "Echo z Tatr"

細川俊夫: エチュードVI — 歌、リート — ピアノのための
Toshio Hosokawa: Etude VI — Lied, Melody — for Piano

ショパン: ノクターン第4番ヘ長調 Op.15-1
Chopin: Nocturne No.4 in F major Op.15-1

シモン・ラクス: チェロソナタより 第3楽章
Szymon Laks: Cello Sonata ~ 3mov.

メシアン: 世の終わりのための四重奏曲より 第6楽章 七つのラッパのための狂乱の踊り
Messiaen: Quartet for the End of Time ~ 6mov. Dance of fury, for the seven trumpets

ミェチスワフ・ヴァインベルク: フルートとピアノのための12の小品 Op.29
Mieczysław Wajenberg: 12 Miniatures for Flute and Piano Op.29

シューマン: ピアノ四重奏曲変ホ長調 Op.47
Schumann: Piano Quartet in E-flat major Op.47



花と緑と音楽の
おもてなし



主催: 広島市、公益社団法人広島交響楽協会

お問い合わせ

広響事務局

TEL: 082-532-3080

<http://hirokkyo.or.jp>



ピアノ **酒井 茜**
Akane Sakai, Piano

桐朋女子高等学校音楽科を経て桐朋学園大学を卒業後、ブリュッセル音楽院を経てルーヴァン音楽院修士課程を一等賞で卒業。これまでに三浦みどり、バーヴェル・ギリロフ、リリア・ジヘルシュタインに師事。NPO法人イエローエンジェル奨学生、文化庁海外派遣新進芸術家研修生に選出。ソリストとして、シルヴァン・カンブルラン、アレクサンドル・ヴェテルニコフ、リオネル・ブランギエ、大友直人、ハンブルク交響楽団、シンフォニア・ヴァルソヴィア、東京交響楽団などと共演を重ねる。室内楽ではマルタ・アルゲリッチ、ギドン・クレーメル、堀米ゆず子、ニコラ・アンゲリッシュらと共演。シュビルマン(戦場のピアニスト)、ヴァインベルグ、シュミットなどユダヤ人作曲家の作品の演奏も積極的に行っている。録音は「ルガノ音楽祭」のライヴCD(ワーナー、ドイツ・グラムフォン)、レコード芸術誌特選盤に選ばれた初のソロCD「ストラヴィンスキー、プロコフィエフ、ラヴェル」(キングインターナショナル)。ドイツAcousenceより「VOYAGES」など多数。ドイツ・ハンブルクでのアルゲリッチ音楽祭のアーティストティック・プランナーとしても活躍をしている。



ヴァイオリン **北田千尋**
Chihiro Kitada, Violin

広島市出身。桐朋学園大学音楽学部卒業、同大学院修士課程修了後、ブリュッセル王立音楽院、マーストリヒト音楽院に留学。第7回仙台国際音楽コンクール第4位受賞。第1回ブラチスラヴァ舞台芸術アカデミー国際音楽コンクール第2位。第65回全日本学生音楽コンクール全国大会中学生の部第1位。ミュージックアカデミー in みやざき優秀賞、霧島国際音楽祭賞など数々の賞を受賞。広島県教育委員会より『メイプル賞』、広島市長より『フェニックス賞』受賞。国内外のオーケストラと共演し、ソリストのほかコンサートマスター、室内楽奏者としても活躍。カルテット・アマービレのメンバーとしても活躍し、第65回ARDミュンヘン国際音楽コンクール弦楽四重奏部門にて第3位及び特別賞受賞。2024年7月から広島交響楽団コンサートマスターに就任。



ヴィオラ **安保恵麻**
Ema Ambo, Viola

4歳よりヴァイオリンを始める。東京藝術大学音楽学部附属音楽高等学校を経て東京藝術大学音楽学部を卒業。高校入学と同時にヴィオラへ転向。卒業時に同声会賞を受賞。1999年、PMFに合格。PMFでは、首席奏者も務める。その他、宮崎国際音楽祭、アフィニス夏の音楽祭、オホーツク音楽祭in紋別、イタリア・チェルボ国際音楽祭などの音楽祭にも参加。2005年4月に広島交響楽団首席ヴィオラ奏者に就任。横浜シンフォニエッタのシーズンメンバー。これまで、ヴァイオリンを鷺見康郎、津田順子の各氏に、ヴィオラを菅沼準二、川崎和憲、小野富士、市坪俊彦、ジャン・シュレムの各氏に、室内楽を北本秀樹、岡山潔、荻田雅治、田中千香士、小林道夫、生沼晴嗣の各氏に師事。



チェロ **マーティン・スタンツェライト**
Martin Stanzeleit, Violoncello

ドイツ出身。5歳よりチェロを始める。エッセン国立音楽大学でヤンチャン・チョウ氏に師事。同大学を首席で卒業。その後、ソリストコースでクリストフ・リヒター氏のもとで学ぶほか、ジークフリート・パルム、ハインリヒ・シフ、ヤーン・シュ・シュタルケルの各氏に師事。デンマーク王立歌劇場に入団。コペンハーゲン・フィルハーモニー管弦楽団にチェロ首席奏者として招聘される。1998年より、広島交響楽団の首席チェロ奏者に就任。広島交響楽団や全国各地のオーケストラなどとソリストとして共演するほか、客演首席奏者としての招聘も多い。室内楽奏者としても幅広く活躍している。2011年に財団法人けんしん育英文化振興財団より、県民文化奨励賞受賞。使用楽器は1691年製フランチェスコ・ルジェーリ。



フルート **森川公美**
Kumi Morikawa, Flute

京都市立芸術大学在学中にフランスへ渡り、パリ国立高等音楽院、パリ・エコール・ノルマル音楽院を卒業。在仏中はフランス各地で室内楽、リサイタル、現代音楽の新作初演などの活動を行う他、イスラエル、チェコ共和国などの音楽祭にソリストとして出演。1999年第4回びわ湖国際フルートコンクール第2位。2004年広島交響楽団へ入団。広島文化学園大学学芸学部音楽学科、エリザベト音楽大学にて非常勤講師として後進の指導にもあたっている。これまでにフルートを飯嶋豊、伊藤公一、白石孝子、ソフィー・シェリエ、ピエール＝イヴ・アルトの各氏に、ピッコロをピエール・デュマイユ氏に、バロックフルートをピエール・セシェ氏に師事。



クラリネット **高尾哲也**
Tetsuya Takao, Clarinet

香川県高松市出身。香川大学教育学部附属高松中学校、香川県立高松高等学校を経て、1988年、東京芸術大学卒業。在学中、安宅賞受賞。読売新人演奏会及びヤマハ新人演奏会に出演。渡仏しオルレアン国立音楽院に入学、ミッシェル・アリニョン氏に師事する。1990年、地方統一試験において審査員全員一致による一等賞を受賞しオルレアン国立音楽院を卒業。日本に帰国。1991年、第2回日本木管コンクール第3位入賞。1992年、第9回日本管打楽器コンクール第2位入賞。1996年より広島交響楽団クラリネット奏者を務める。クラリネットを山崎盾之、藤井一男、三島勝輔、ギィ・ドゥブリュ、ワルター・ボイクセンの各氏に師事。



明子さんの被爆ピアノ

このピアノは、1926年アメリカBaldwin社で製造されました。ロサンゼルスで生まれた少女 河本明子さんが愛用していました。1933年(昭和8年) 河本源吉・シヅ子さん夫妻と共に広島に移り住みました。1945年(昭和20年) 8月6日原爆投下。学徒動員での作業中に明子さんは被爆し、翌7日夕方19歳の生涯を閉じました。病名は「急性放射能障害」でした。ピアノも爆風により、多くのガラス破片で傷つきました。2005年(平成17年) 8月、調律師 坂井原浩氏によって困難な修復作業によって音色を甦らせました。8月3日被爆60周年祈念「被爆ピアノ・チャリティコンサート」が開催されました。

以来「明子さんのピアノ」は、あの日の出来事を現在へ伝える貴重な「被爆遺品」として、平和の調べを奏でています。

現在、広島市平和記念公園内のレストハウス2階に常設展示されています。

(一般社団法人 HOPE プロジェクト ウェブサイトより)